

英文読解の方法を考える

菊川 倫子

要旨

達成度が低い学習者が英語習得を試みる場合に困難を感じる項目の一つは、英文構造がわからないという点ではないだろうか。英文構造の理解は英文を「書く」・「読む」の作業を行う基礎知識であり、「話す」行為においても文章構築がなければ、単語の羅列に終わってしまう。「聞く」作業についても相手が話す文構造の理解が内容の正確な理解につながる。

高等学校卒業までの英語学習期間を経ている学習者に英語学習で苦手なことを質問すると、「単語が覚えられない」、「文法がわからない」、「文章の意味を取るのが苦手」という回答がよく聞かれる。ベネッセ教育総合研究所が行った「高1生の英語学習に関する調査〈2015-2019継続調査〉」⁽¹⁾によると、英語を苦手と感じるようになった時期は中1の前半と高1の前半で、「文法が難しいと感じている」高1生は8割、「英語を書くのが難しい」と感じているのは77%、「単語を覚えるのが難しい」と「つづりを覚えるのが難しい」がそれぞれ70%ほどいる。そして半数以上の高1生が「教科書の本文を理解するのが難しい」と感じている。これらの困難を少しでも解消する対処法があれば、英語学習に真のコミュニケーションとしての意味が出てくるのではないか。あいまいな知識を寄せ集めてとりあえず必要なテストの合格点だけを目指すようでは、教える側にとっても、授業は意味の薄い時間になるのではないか。先ずその問題に対する一案として、文構造を語彙の意味から考える方法を試している。

学習者に次の英文の意味を考えてもらおうと、例えば下のような回答がある。
She was kind enough to show me the way to the post office.

(1) 彼女は私にポストオフィスを見せてくれる優しい人です。

(2) 彼女は私に郵便局までの方法を教えてくれた。

- (3) 彼女はオフィスを十分親切に見せてくれた。
- (4) 彼女は十分なほど郵便局までの道を教えてくれた。
- (5) 彼女は優しく私に郵便局を見せてくれた。
- (6) 彼女はオフィスまでの道を見せてくれるほど親切だ。
- (7) 彼女は親切ながら郵便局までの道を案内してくれた。
- (8) 彼女は親切にも郵便局までの道のりを教えてあげました。
- (9) 彼女は郵便局への道を私に案内した。

これらの誤りは以下のとおりとなる。

- (1) 回答者はthe post officeを「郵便局」と認識していなかった（辞書を調べればわかる）。be kind enough to ~の定型の理解が十分ではない。また、enough to以下が「彼女」の親切さの程度を述べることでkindの具体的な内容を詳述する部分であることを理解していない。kind enough to show me the way to the post office が一つの「意味のかたまり」であることを捉えていないのである。kindが「優しい（親切な）」だと知っている回答者は、その知っている語だけで文意を創作した可能性あり。
- (2) the wayの意味の取り違い（辞書を丁寧に調べればわかる）。kind を文の意味取りから除外。（kind enough to ~を理解すればわかる。）郵便局への「方法」を教えてくれるほどなら親切な人物なのは自明だと考えて、kindの意味取りをしないまま意味の奇異さを無視した可能性あり。
- (3) the post officeを確実に捉えていない（辞書を調べればわかる）。「十分親切に」は原文とは別の意味。kindとenough の意味をそれぞれ知っていたので、類推で両方を合体させ、それらしく見せてしまったと考えられる。
- (4) kind enough to ~ のenough to ~の部分だけはわかったので、それで意味が通じそうな訳をしてみた。原文とは別の意味を持つ文になってしまった。
- (5) 「優しく私に郵便局を見せる」という状況は不自然。showの意味を確実にとらえていない（辞書を調べればわかる）。
- (6) the post officeを正しくとらえていない（辞書を調べればわかる）。show

の意味を「見せる」だと知っていた回答者は、「道を見せる」は不自然だと思ったかもしれないが、そのままにしてしまった（その結果、意味が不自然な文になった）。

- (7)「親切ながら」はこの状況に適切ではない（日本語の使い方の問題）。
- (8)「教えてあげました」は視点が「彼女」にあるが、英文が述べているのは「私」の視点である。（一つの文の中で話者がずれてしまった例）
- (9) 意味が分からなかったkind enough to ～はそのまま除外して意味をつけてしまった。

これらの回答は文構造を正確に取り切れず、「なんとなくこうではないか」という推測で書かれたものである。それは語彙とkind enough to ～という文法項目を知らないことで起こった誤りであり、また、SVCの文構造を的確に理解しなかったから起こったことでもある。

正しいと確信を持てる適切な読解はどうしたら可能であろうか。現在筆者が試行しているのは意味のかたまりをとらえて構文を分析する方法である。文法事項や文型から意味を探るのではなく、意味から文型を探ることになる。上記の英文を例にとると、次のような作業を行うことになる。

まず、学習者は英文には5文型があることを確認しておく。その後、語の意味を調べたうえで、「意味のかたまり」を探る。例えば上の英文だと主語はShe、動詞はwasでS+Vの型であることを確認し、kindまでで「彼女は親切だった」の意味をとっておく。enough to ～の使い方を調べておいて、to show me the way to the post officeの部分がShe was kindとどのように意味がつながるのか、その可能性を考える。showは「案内する」なので、この語を使うには日本語の場合でも「誰にどこを」案内するのが必要だということを考えてみる。英文ではそれがmeでありthe wayである可能性を確認する。ここまで来ると、the wayは(2)の回答のように「方法」とはならないことが確認できる。また、その「道」がどこへの道なのかを示すのがto the post officeだと想像できるので、the way to the post officeは「意味のひとかたまり」であ

ることがわかる。この「ひとかたまり」がわかれば、逆に「彼女は親切で郵便局へ案内してくれた。」という日本語の文章を英訳するように求められた場合でも、the way とto the post officeの位置に迷って二つを切り離してしまうことなく、「意味のひとかたまり」として繋げられるようになるのではないだろうか。最後に、意味を調べておいたenough toを加えて前後の自然なつながりを考えると、学習者は「彼女は親切で私を郵便局へ案内してくれた。」という意味だと理解する。

長い主語を持つ文も文構造をわかりにくくしている一例であろう。

They had paid no attention to human beings and all attempts to communicate with them had failed.⁽²⁾ の場合、学習者によってはall attempts以下の主語・動詞がわかりにくい。これを意味から考えてみる。all attemptsの意味が「試みのすべて」だと調べられたら、次は「何の試みか？」に思いが至る。文中にそれを探し、あらかじめ調べておいたcommunicate with themと関連付ければ、その部分が「彼らとコミュニケーションを取ろうとする試みのすべて」という「意味のひとかたまり」だと捉えられる。それを手がかりにして、この部分が主語を含む部分で、had failedが動詞だと気づく。関係詞を含む文のように複雑な構造を持つ文も学習者には意味を取りにくい、意味からアプローチすることで構造がわかりやすくなるのではないだろうか。

高等学校卒業程度認定試験のBレベルと同程度の学習者が英文読解をするときに、主語・動詞・目的語・補語の確認に加えて「意味のかたまり」から文構造をとらえる練習を筆者は半期間行った。その前後に行った達成度テストを比較すると約3分の1の学習者の成績が向上し、彼らは与えられた語句を並べ替えて英文を作る問題でも結果に向上が見られた。この方法は特に新しい方法ではない。また筆者も試行段階にいて、今後確実なデータによって再考しなければならない。しかし、読解で「意味」を適切に捉える技量があればそれは「書く」「話す」「聞く」技量にもつながり、コミュニケーションツールとしての英語が生きるのではないだろうか。

注

- ⁽¹⁾ 「高1生の英語学習に関する調査〈2015-2019継続調査〉」はベネッセ教育総合研究所が高校生の英語学習に関する意識と実態を明らかにすることを目的に、全国の高校1年生971名を対象に2019年3月から4月上旬に実施したもの。

<https://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=5467>

- ⁽²⁾ Pattern, Fredric Brown, in *Let's Enjoy SF Short-Shorts*, p. 26, Kaibun-sha, 2010

(きくかわりんこ、本学教授)